

# 早生系りんどうの春期ビニール被覆による採花期の前進

園試高冷地開発センター

## 1 背景とねらい

りんどう経営の安定化を図るためには、品種の組合せによる面積拡大と需要期に大量に出荷できる作型の確立が望まれている。

しかし、県北部、高冷地、多雪地帯では早生系品種を導入しても夏場の需要期である月遅れの盆前（8月上旬）の採花率が低く、有利販売に結び付かない場合が多い。

そのため栽培面積の拡大と長期継続出荷による産地の確立をねらいとして、採花期の前進作型技術について検討した。その結果春期ビニール被覆栽培法が明らかになったので指導上の参考に供する。

## 2 技術の内容

### 1) ビニール被覆の効果

(1) ビニール被覆することで平均開花日が4～5日早まる。（表-1）

(2) 8月盆前（8月上旬）までに30～40%採花率が向上し、需要期の出荷量が多くなる。（表-2）

### 2) ビニール被覆の方法

(1) 被覆時期は4月上旬が良く早いほど採花期が前進する。（表-1, 2）

(2) 被覆の方法は外ビニール+ポリトンネルの二重被覆とする。

(3) 被覆資材の除去時期は、外気の最低気温が10℃以上に達した時期に行う。

### 3) 適応地域 県北部および、高冷地

## 3 指導上の留意事項

1) この技術は早生系品種を対象とする。

2) ビニール被覆後の温度管理は、側芽が見えるまでは夜温を8～10℃以下にならないように保温に努める。日中は25℃を越えないように換気には充分注意する。

3) 株立ち数の多い株は、株仕立て作業が遅れると品質（茎が細く、花段数が少なくなる）が低下するので、慣行（草丈30～40cm）よりも早い時期から実施する。

4) 施設の経費節減等からミニパイプハウスを利用する。

## 4 当該事項にかかる試験研究課題名

山村地域活性化のための技術開発（山野資源植生活用型）――安代町  
りんどうの作期拡大と品質向上

5 試験結果の概要

表-1 平均採花日

試験区	S63	H	1
	4/5被覆	4/1被覆	4/10被覆
対照(露地)	8月13.1日	8月11.5日	8月11.5日
外ビニール	8月11.1日	8月7.9日	8月9.4日
外ビ+タフベル	8月10.0日	8月7.8日	8月8.2日
外ビ+バスライト	8月10.2日	—	—
外ビ+ポリフィルム	8月9.3日	8月6.3日	8月7.5日

※注：平均採花日＝採花日×1日当り採花数／総採花数

表-2 採花時期別の割合(累計値)

単位：%

年次	採花時期	7月	8月				
		6半旬	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬
S 63	対照(露地)	0	1	31.0	66.0	90.5	100
	外ビニール	0	0.9	47.9	85.4	99.0	100
	外ビ+タフ	0	4.6	58.8	94.9	100	
	外ビ+バス	0	5.0	53.8	88.9	100	
	外ビ+ポリ	0	3.4	73.4	96.8	100	
H	対照(露地)	1.6	9.8	52.3	76.5	91.9	100
	4/1被覆区						
	外ビニール	4.7	13.4	80.9	98.8	100	
	外ビ+タフ	8.0	16.2	81.6	97.5	100	
1	4/10 "						
	外ビニール	8.0	23.9	62.8	81.9	100	
	外ビ+タフ	4.7	31.9	75.7	96.8	100	
	外ビ+ポリ	8.3	34.2	84.8	97.1	100	

表-3 採花時の生育

(平成元年)

試験区	草丈	節数	中間節間長	中間茎径	葉長	花段数	
	(cm)	(数)	(cm)	(mm)	(cm)	(段)	
対照(露地)	130.1	24.4	4.9	4.7	10.1	4.1	
4	外ビニール	133.0	24.6	5.4	4.6	10.7	4.5
/	外ビ+タフ	142.2	25.2	5.2	4.9	11.3	4.4
1	外ビ+ポリ	142.0	25.3	5.3	4.4	10.7	3.9
4	外ビニール	129.1	25.0	5.1	4.5	9.8	3.9
/	外ビ+タフ	140.0	24.9	5.3	4.5	10.9	4.1
10	外ビ+ポリ	133.1	25.2	5.3	4.4	10.2	4.3